
私の願い

あると

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の願い

【Nコード】

N1012Z

【作者名】

あると

【あらすじ】

私の願いを聞いて欲しい。

（前書き）

後味が悪いので、苦手な方はご遠慮ください。

我が軍の侵攻はとどまるところを知らないようだった。今日もまた新しい都市の攻略に乗り出したと情報が入った。

私が所属する部隊はというと、占領した町の事後処理、主として治安維持が任務である。

町は静謐な空気に満ちていた。

抵抗する男たちは、たいてい皆殺しにされていたから、住人を掌握するのは難しくない。だが、安心はできなかった。生き延びた老人や女子供の目は、いつも不穏な気配を漂わせている。建物の陰から覗き見る彼らは、さながらブッシュの中の毒蛇だった。

私たちの部隊は、心に不安を抱えながらも、隙を見せないようにしていた。

ある日の巡回中の出来事である。私の相棒が、野球のバットを引かずっている子供を見つけた。

「待て」

銃口を向けようとする相棒を押し止めた。子供でも何をするかわからないと考えたのだろが、さすがに過敏になりすぎだ。

「私に任せてくれ」

本当は、相棒の彼が怯えていると知っていた。銃という武器を持っていても、心に余裕は作れない。集団で襲いかかれたら、ひとたまりもないのだ。

相棒を後ろに追いやると、彼は目に見えて安堵した。

「こんにちは」

少年は、息子と同じくらいの年頃だった。野球選手を夢見ていた我が子を思い出した。

だが、彼はもういない。我が家にあったボールやミットと一緒に、焼夷弾で燃えてしまった。

「……」

少年が睨み付けてきた。

この子の父親は、私たちの軍に殺されたのだろっ。

「どうしたのかな」

両手を広げて笑ってみる。作り笑いだった。本当の笑い方は、忘れた。

「野球、するのかい」

自分の口から出た声に驚いた。かつて息子に向けていた父親の声だった。

「パ、パ……」

どきりとした。

パパ。

確かにそう聞こえた。みぞおちがきゅっと鳴る。手のひらに、汗を感じた。

あの時、息子は笑いながらボールを投げた。ミットを通して伝わるボールの勢いが、年々強くなってるのが楽しかった。父親として子供の成長が単純に嬉しかった。

私の息子は、どこに行ってしまったのだ。

気づくと、息子の名を呼んでいた。心の奥底にしまいこみ、口にすることを避けていたのに。

しょっぱい味が口に入ってきた。

膝をついた。視線が少年と同じになる。

目があった。

「パパを、返せ！」

バットの鋭い風切り音がした。

いいスイングだ。

頭に衝撃を感じたけれども、何故か心地良かった。

銃声がした。

子供が悲鳴をあげた。

痛い泣き叫んでいた。

熱いともがいていた。

「パパ……」

頼む。

もう殺さないでくれ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1012z/>

私の願い

2011年12月3日21時56分発行